

定期演奏、難曲に挑む

佐和高吹奏楽部

上野さんは1992年生まれ。8歳から地元の小学校の吹奏楽部でサクソフォンを始め、東京芸術大器楽科在学中から同級生らと楽団を結成してCDデビュー。第12回ジュニアサクソフォンコンクール第1位、第28回日本管打楽器コンクールの同部門で史上最年少の第1位など受賞歴多数。世界サクソフォンコンGRESSでソリストとしてイギリス王立ノーザン音楽院吹奏楽団と、ピット・スウェル

との出会いがきっかけ。顧問の枝川孝行教諭が「注目されている郷土の音楽家の指導を部員に一度でも受けさせたい」と交渉し、スケジュールの合間に指導が実現した。その練習後、上野さんと共演の話が持ち上がった。上野さんが「プロの世

者、上野耕平さんの演奏会をきっかけに交流が始まり、上野さんが選曲した。この曲の演奏は高校生では全国初の試みだという。演奏会は29日、ひたちなか市青葉町の市文化会館大ホールで行う。入場無料。



生徒と一緒に演奏しながら指導する上野耕平さん(右) = 15日、ひたちなか市の佐和高校

ひたちなかで29日 プロ奏者が選曲、指導

界の一端を味わってもらい、部活だけでなく、大人になっても演奏に携わってほしい」と希望。「高校生らしく演奏し、これまでと違う音楽の世界を体験させたい」と、あえて超難曲に演目が決まった。

上野さんが東海村の実家に帰省する形で、3月に続いて2回目の直接指導が15日、佐和高で行われた。午後開始。夕方まで5楽章全部を練習した。

上野さんは「ずいぶん音が良くなって驚かされた。諦めずに猛練習してくれたのでしよう。うれしい」と話していた。

枝川教諭は「楽譜を見たときに正直、演奏できないと思った。生徒たちは学校の正門が開く前から登校して毎日朝練。放課後も閉校時間まで頑張っている」と話している。

部長でコントラバス担当の3年生、大内涼音さんは「形になってきた。上野さんとの練習を最も身近で体験できて感激」。副部長でファゴット担当の3年、賀波澤菜優さんは「一定演を鑑賞される方に演奏で自分たちのメッセージが伝わってほしい」、同じくアルトサクソフォン担当の黒澤沙織さんは「みんな頑張っている。連符に挑戦です」と練習に励んでいる。

演奏会は午後1時半開始、同2時間演。

(萩庭健司)